

## 第4学年 国語科学習指導案

1 単元名 「ことわざブック」を作ろう（東京書籍）

2 単元目標

○ことわざや故事成語に関心を持ち、意味などを調べて使おうとしている。

【関心・意欲・態度】

◎ことわざや故事成語について知り、意味や使い方を理解すると共に、自分の表現に生かして使っている。

【言語についての知識・理解・技能 ア(イ)イ(オ)(カ)】

○自分の経験や想像したことから、ことわざを活用して文章に書くことを考えている。

【B書くこと(1)ア】

○ことわざの意味に応じた具体例を挙げて、短い文章を書いている。

【B書くこと(1)ウ】

○知りたい内容に応じて、ことわざ辞典や国語辞典などいろいろな本を選んで読んでいる。

【C読むこと(1)カ】

3 情報活用能力とのかかわり

「大田市小・中学校 情報活用能力指導体系表」における【抜き書きの仕方】の能力  
出典の記述、まとめ方

4 単元について

(1) 教材について

本単元は学習指導要領第3学年及び第4学年の次の領域を受けて設定されている。

C 伝統的な言語文化に関する事項

(1) ア (イ) 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。

ことわざは、生活の体験的な知恵から生み出された教訓や知識を含んだ昔から使われてきた言葉であり、情報があふれている現代においても、ことわざは多くの人に使われている。それは、ことわざは、簡潔で語呂が良いため覚えやすく、真理を巧みに言い表しているものが多く含まれているからである。

児童の中には、家族との会話などからことわざを知っている児童もいるであろう。ことわざの意味を知れば、自分の経験などから情景を思い浮かべることが期待され、生活と結びつきをもたせることができる教材である。

本教材では、ことわざを集めてその意味や使い方を調べたり、また、「いろはかるた」で遊んだりする学習活動を通して、伝統的な言語文化にふれさせていく。ことわざへの関心を高め、先人の知恵や考え方にふれさせるとともに、児童自身の言語生活の中に適切に生かせるようにしたい。身近にある昔の言葉を知ることは、今後の古典学習への導入となるものである。

## (2) 児童について

略

## (3) 指導について

指導に当たっては、始めに「ことわざカード」や学習スケジュールを提示し、見通しをもたせる。

ことわざといっても、児童によっては初めて聞くものもあると思われる。そこで、1時間目では、学習の見通しをもたせると共に、ことわざを穴抜きで提示し、そこに入る動物や生き物をクイズ形式で答えることわざゲームをする。「ことわざっておもしろい。」という気持ちを持ち、興味をもって学習に取り組めるのではないだろうか。

本時は、図書資料からことわざの意味を調べる時間である。図書資料は、学校司書の協力を得て選書し、児童一人に一冊渡るぐらいの数を用意するようにする。ことわざの本は、絵が多く描かれており、児童にとっては親しみやすい。また、書かれていることも整理されているので、調べたいことを見つけ出すことができやすいのではないかと考える。自分で文を作る際にも、本に書かれていることが考える手立てになるのではないだろうか。本時では、本の見方について話をし、本によって書き方が違うので児童が注意して調べられるよう声をかけたい。

まずは、全員共通のことわざについて図書資料を使って調べる。ことわざカードには、ことわざの意味、出典、自分で作った文を書く。

ここでは、抜き書きの力が必要である。ことわざの本は、前述したように見やすく整理して書かれているので、ことわざの意味や使い方は自力で見つけられると予想されるが、本によってはたくさんのことがまとめて書かれている場合があるので、個別に声をかけ必要なところを抜き書きできるようにする。

全員共通で調べることわざ「後悔先にたたず」はどんな意味かを予想させ、意欲を高めた上で学習を始めさせたい。グループの人数分本を置いておき、一人ずつ調べられるようにする。出典の記述については「著作権」等の学習で押さえているが、すべてを書き出すには時間がかかることが予想される。本時ではことわざの意味を調べたり例文を作ったりすることを重視するためブックリストを作成し、調べた本がその中のどれかを番号で書くようにすることで出典に代える。全員で同じことわざを扱うことによって、図書資料の見方や調べ方を確認し、児童が進んで調べることができるようにしたい。

全員でことわざカードを作ったあとは、グループごとに一つことわざを選び調べる。グループで活動を行うことによって、教え合い、助け合う子どもたちを育て、ことわざカードを作るという課題解決に全員で向かわせたい。また、友達と本を交換するなどしていろいろな例文に触れながら短文作りに取り組ませるように声をかけ、本時のねらいを達成する手立てとしたい。また、ヒントカードを用意しておき、短文作りが難しい児童には様子を見て教師が提示するようにする。

本時の学習形態に全体・グループを取り入れることによって、次時から個人で活動する際、調べることやワークシートを書くことへの抵抗を少なくすることができるのではないかと考えている。最後には、グループで役割を決めて全員が発表する機会を設け、調べることができたという達成感にもつなげたい。

第3時では、前時のことわざの調べ方や文の作り方を理解した上で、自分ひとりで調べる時間である。学んだことを生かして調べたり、具体的な場面を想像しながら短文を作ったりできるようにする。そのために、前時の振り返りや、掲示物を効果的に活用する。

前時に二枚のことわざカードを作っているとはいえ、抽象的な思考が苦手な児童にとっては、自分の体験を一般化してことわざの意味と結びつけることは難しい作業だと思われる。ことわざの意味と似た体験はないか一緒に考え、文章にまとめていくようにする。

第4時では、友達とカードを見合いおもしろい文を見つけたり、自分の経験と重ねたりしてことわざを生活の中で使ってみたいという意欲をもたせたい。学習形態や発表の仕方を工夫し、多くの友達と交流できるようにする。単元の最後にはいろはかるたで遊び、ことわざに親しみながらさらにたくさんのことわざを獲得できるようにしたい。

5 単元指導計画及び評価計画（全6時間 本時 2／6時間）

時間	学習活動	評価				教師の支援 司書教諭・学校司書との連携	
		関	読	書	言		評価規準 評価方法（ ）
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しをもつ。</li> <li>・ことわざパズルをして、ことわざに関心をもつ。</li> <li>・ことわざの本の使い方を知る。</li> </ul>	○				<ul style="list-style-type: none"> <li>知っていることわざについて話したり、発表を聞いたりしてことわざに興味をもち、学習に意欲的に取り組もうとしている。(発言・観察)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書資料の用意、紹介</li> <li>・「ことわざカード」を提示したり学習スケジュールを立てたりしておき、見通しをもって活動できるようにする。</li> <li>・ことわざを知らない児童も意欲的に取り組めるように、ことわざをパズルの形で提示する。</li> </ul>
2 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ことわざの意味や使い方を調べ、短文に表す。(共通→グループ)</li> </ul>			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>ことわざ辞典などの本を使ってことわざの意味や使い方を調べ、意味にあった短文を作ることができる。(ワークシート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書資料の用意</li> <li>・抜き書きの方法や本の見方について説明する。</li> <li>・ブックリストの使用方法を確認する。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が調べたいことわざの意味や使い方を調べ、短文に表す。(個人)</li> </ul>			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>大事なことを正しくカードに書いている。</li> <li>今までの経験や具体的な場面を想像しな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書資料の用意</li> <li>・いろいろな例文に触れさせたり、具体的な場面を一緒に思い出したりする。</li> </ul>

					がらことわざを使った文を作っている。 (ワークシート、観察)	
4	・似ている意味や反対の意味のことわざ、動物が出てくることわざなどテーマを絞って、ことわざの意味や使い方を調べ、短文に表す。(個人)			○	大事なことを正しくカードに書いている。 今までの経験や具体的な場面を想像しながら、ことわざを使った文を作っている (ワークシート・観察)	・図書資料の用意 ・分類整理の時間をとり、テーマを設定できるようにする。
5	・ことわざカードを友達と見合い、ことわざを正しく使っているか確認したり、ことわざに合った文を紹介しあったりする。			○	いろいろなことわざを知り、ことわざの意味や使い方を理解している。 (ワークシート・発言)	・学習形態を工夫し、児童同士でことわざを正しく使っているか確認する。また、たくさんの友達と交流できるようにする。
6	・「いろはかるた」で遊ぶ。	○			ことわざの意味や使い方を確かめ、活用しようとしている。 (発言・観察)	・いろはかるたを紹介する。 ・「ことわざブック」は図書館に展示する。

6 本時（2／6時間）

(1) ねらい

ことわざの意味を調べて、意味にあった短文を作ることができる。

【書くこと】

(2) 展開

	学習活動	教師（T1）の支援	司書教諭（T2）の支援	学校司書の支援
5分	1 本時の学習の見通しを持つ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ことわざカードを作ろう。</div>	○本時の流れを全員で確認することで、見通しをもって学習できるようにする。		
15分	2 共通の課題でことわざカード作りに取り組む。 「後悔先にたたず」 ①意味を調べる。 ②出典を書く（リスト番号） ③自分で作った文を書く。	○意味を予想させて、調べるようにする。 ○教師の例文を紹介する。	○ワークシートや出典の書き方を確認することでカード作りにスムーズに取り組めるようにする。	
15分	3 ことわざカードを作る。 ※各グループにお題がある。 「絵にかいたもち」 「あぶはち取らず」 「泣きつつらにはち」 「身から出たさび」 「豚に真珠」 「安物買いの銭失い」	○短文作りが難しい児童には、様々な本の例文を参考にさせたり、ヒントカードを見せたりする。	○本の使い方に困っている児童がいれば、目次や索引、つめを使って一緒に調べる。	○児童に合った本を提供する。
5分	4 グループでおすすめの例文の一つを選び、役割を決めて発表する。 ・調べたことわざを言う人 ・意味を言う人 ・調べた本を紹介する人 ・作った文を言う人	○話し合いの時間を設け、使い方が正しいものや、場面の様子がよく伝わるものを吟味して選ばせるようにする。		
5分	本時のふりかえりをする。	・学習での気づき、友達との関わり、これからやってみたいことなど視点を示して、振り返らせる。		

### (3) 評価

○評価の観点：書くこと

評価	児童の具体例・支援
十分満足できると判断される児童の姿	ことわざの意味を正しく理解し、それに合った経験や具体的な場面を想像し、分かりやすく文章にまとめることができる。
おおむね満足できると判断される児童の姿	ことわざの意味を正しく理解し、それに合った場面を文章にまとめることができる。
支援を要する児童への指導の手立て	いろいろな本の用例に触れさせたり、ヒントカードの文例を基に考えさせたりする。

### (4) 研究の視点

○ことわざの本を活用したり、ヒントカードを提示したりしたことは、児童が自分自身の体験などを想起しながら文を作る支援になったか。